

海外「銀行サービス」はいま

54

「モバイルバンキング最新事情」

K.Namba

デジタル化をリードする役員がいない

チーフ・デジタル・オフィサー（CDO）の名称をご存知ですか。昨年1月にCDO Clubが発足してCDO サミットが開かれるようになった。今年4月にニューヨークで開催された2回目のサミットで創設者のデビッド・マティソン氏はCDOが増え続ける現状を次のように紹介した。

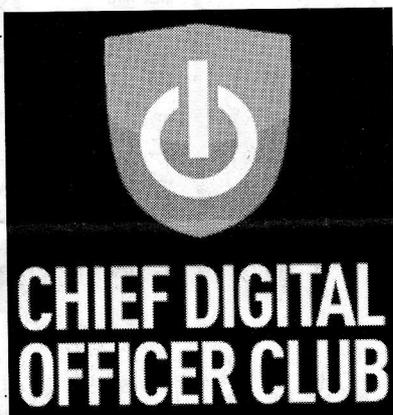
2005年にメディア業界のMTV社に最初のCDOが登場して以来、10年に52人から→75人→225人→488人のCDOが世界にいる。今年14年には倍の1,000人になると予測されている。

世界の人口71億人に対して携帯電話の登録は68億件、世界中では40%の人々がオンラインでつながれている。加えて4,000万アプリが毎日ダウンロードされていると推定されている。このようなデジタル社会の到来が背景にあり、世界中では全業種にわたりCDOが急増している。しかも、昨年は7人のCDOが、CEOにまで昇格したとの実績が紹介された。業種別には、広告業界で40%の企業が、メディア（15%）、出版（15%）と多い。金融（8%）や小売り（7%）でも、CDOを任命している。

前稿（53号）で紹介したよう

に、銀行業界も例外ではなく、“デジタルバンカー”の称号がU.S Bankのパタリナス氏に与えられたように、デジタル社会の銀行をリードする役割を担うチーフ・デジタル・オフィサーもしくは同等の肩書を持つ人が

今年「CDO」は1,000人を突破しそう



出てきた。

過去のアメリカンバンカー紙を見ると、1年前には、単にデジタル技術にたけたオフィサーとしてのCDOの名前が出た程度であったが、スマホの普及とモバイルバンキングユーザーの急増を背景に、デジタル社会の銀行をリードするCDOの役割に期待する記事が出てきている。

そのなかで、キャピタルワン銀行が昨年7月にCDOを指名した例を始め、JPモルガン・

チェース銀行、シティ、USAA銀行、BBVA銀行などで、役職名にはCDOまたは「デジタル・ヘッド」の名称が使われている——と紹介している。

一方、今年1月に発表されたガートナーのCIOアジェンダ報告では、昨年第4四半期の調査結果では、51%のCIOがデジタル化の「波の速さに対応出来ない」と不安を感じ、42%がデジタル化の「未来に立ち向かう人材が足りていない」と認識していることが明らかになった。また、ITサービスのデジタル化に向けた準備を整えるためには「明確なリーダーシップ、戦略、ガバナンスが求められている」と言及している。

いま世界中のあらゆる地域、あらゆる産業が「デジタル化による崩壊に見舞われている」と指摘し、CIOと対等な位置付けのCDOの存在の重要性を強調している。

英国のテレグラフ紙とハーバードレビューが報告しているように、ボードメンバーの中には、デジタル化をリードする役員がいない。まさに銀行業界がモバイルバンキングでデジタル化の波を受けている今、経営をリードできるCDOの登場が期待されている。